



台風15号の上空通過にともなう気象パラメータの変化

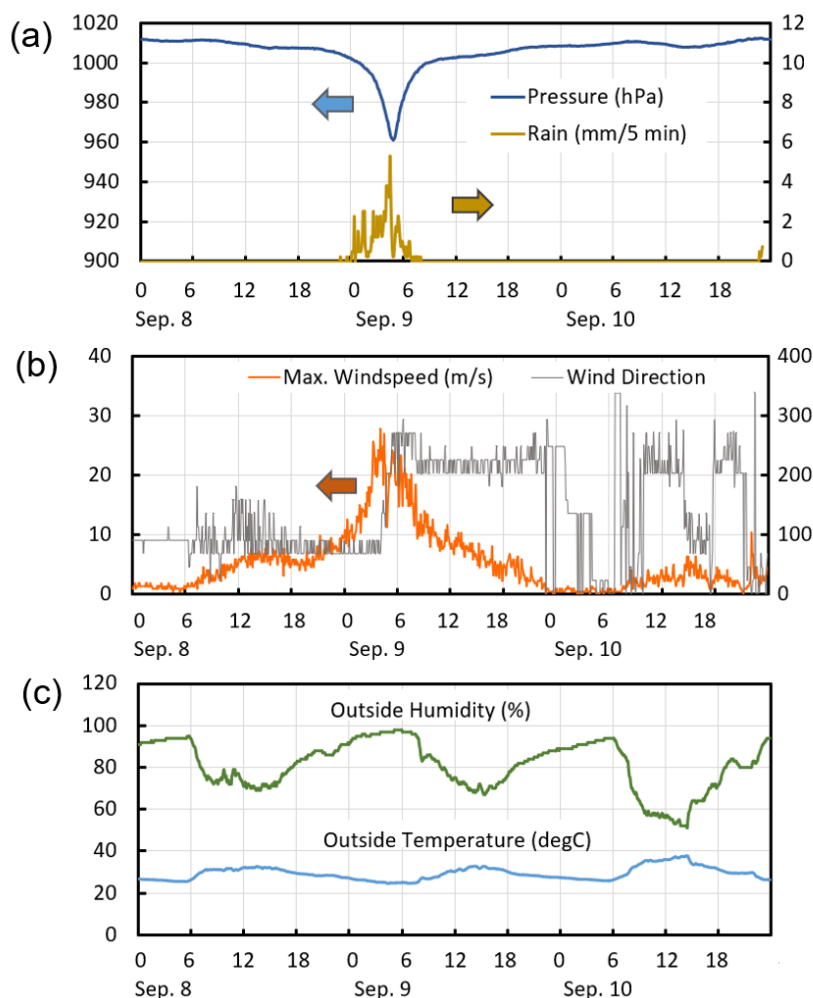
2019年9月9日未明に千葉市に上陸した台風15号は、コンパクトな台風でありながら非常に強い勢力を保ったまま関東地方を直撃し、これまでに例のない台風となりました。上陸時の中心気圧は960 hPa、最大瞬間風速は9日2時31分に館山において48.8 m/sを、同4時28分に千葉市で57.5 m/sを記録しました。千葉県南部を中心として3万棟以上の家屋に被害が生じ、また、倒木等による送電線や電柱の被害によって長いところでは10日以上におよぶ停電が発生し、住民の生活に大きな影響を与えました。

CEReSでは、研究棟の屋上(5F)に天気計(Weather Monitor, Vantage Pro2)を設置しており、その記録でも、9日の気圧の時間変化が記録されました。図(a)は、9月8日から10日にかけての気圧変化

と降雨強度を示します。台風の上空通過にともない、最低気圧である961 hPaが9日の4時50分に記録されました。また、最大の降雨強度(5.33 mm/5 min)もほぼ同時刻(4時30分)に記録されています。図(b)においては最大瞬間風速である26.8 m/sが4時30分に観測され、その直後にそれまでの東風が西風に変化したことが見て取れます。このように気圧、降雨強度、風速、風向は台風通過で大きく変化しましたが、図(c)に示すように、この間の相対湿度、気温の変化は、その他の気象パラメータと比較すると緩やかでした。

異常な気象時ですので、データの精度には注意が必要ですが、これらのパラメータはそれなりに台風の様相を捉えているものと考えています。

(Nofel Lagrosas, 久世宏明)



レーザセンシング学会第 37 回シンポジウムを千葉大学で開催

2019年9月5日～6日、千葉大学西千葉キャンパスの工学系総合研究棟2において第37回レーザセンシングシンポジウムが開催されました。このシンポジウムは、1972年に発足したレーザ・レーダ研究会のシンポジウムにそのルーツがあり、ライダーをはじめとするレーザを使った幅広いセンシング技術やソフト開発などの応用分野の研究発表を行う場を提供して今回の第37回の開催に至っています。今回は工学研究院の椎名達雄准教授（CEReS 兼務教員）が実行委員長として開催の任に当たりました。

口頭発表は2日間にわたってA 大気計測、B 衛星・宇宙、C 要素技術、D 水域・植生、E 光波センシングの5つのセッションで行われ、28件の講演がありました。ポスターは1日目の夕方にセッションが設けられ、32件の発表がありました。その前に行われた特別講演では、パラダイムリサーチの鷲尾邦彦氏が「世界における「載」各種 LiDAR の開発動向」と題する講演を行い、急速な進展を見せている自動運転へのライダー技術の応用等について世界の技術動向について幅広い紹介がなされました。そのほか、1日目午前中のレクチャーではライダーのソフトウェア基礎講座（講師は福岡大の白石浩一氏）があり、功労者表彰（九州大学 前田三男氏、東北工業大学 浅井和弘氏）、14社による企業展示もあつて内容のあるシンポジウムになりました。2日にわたり、参加者総数は104名でした。次回は2020年に仙台周辺で開催される予定です。

（椎名達雄、久世宏明）



第 13 回 4 大学 VL 講習会・協議会が東京大学で開催

2019年9月9日～10日、東京大学大気海洋研究所にて「気候診断 VL プロジェクト（地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成）」の一事業である VL 講習会・協議会が開催されました。気候診断 VL プロジェクトとは、気候変動に伴う様々な変化現象を多角的かつ総合的に診断することを目的として、千葉大学・東京大学・東北大学・名古屋大学の各附属研究センターが連携して研究や人材育

成を行う取り組みのことで（<http://www.cr.chiba-u.jp/~4vl/wiki/wiki.cgi>）。VL 講習会は、その一環として毎年度に1回、学生や若手研究者を対象に行われる体験型の授業です。4センターが各回持ち回りで主幹を務め、各センターの特色と研究資産を生かした講習会が行われます。今回は東大が主幹となって、全球非静力学モデル NICAM と衛星シミュレータ Joint Simulator に関する講義と実習が行われました。詳しくは第13回 VL 講習会の HP（<http://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/vl/vl2019/index.html>）をご覧ください。当日配布された講義資料も公開されています。

筆者の感想：

講習会には4大学をはじめとした多くの大学の大学院生、学部生、若手研究者が参加していました。NICAM と Joint Simulator、どちらも世界最先端の数値モデルで一目見ただけで敷居が高そうなのですが、数値モデルを扱った経験のない人でも手厚くサポートしていただきながら体験できるようになっていました。NICAM を使った実習では、計算設定について学びながら「平成30年7月豪雨」の再現にチャレンジしました。筆者は当時のリアルな降水域や雲画像をググりながら、シミュレーション結果と照らし合わせて楽しんでいました（そういった楽しめる時間的余裕もありました）。

開催の労をお取りいただきました大気海洋研究所の皆様にお礼申し上げます。なお、来年度は CEReS での開催を予定しています。（山本雄平）



VL 講習会・協議会の様子と参加者の記念写真（第13回 VL 講習会 HP の photo gallery より引用）

文部科学省学術機関課の皆様、CEReS を視察

2019年9月20日（金）午前、文部科学省の小林遼平学術機関課長補佐をはじめとする皆様が CEReS を視察されました。午後からのハドロン宇宙国際研究センターでの国際ミーティングにご参加されるべく当大学を訪問された中で短い時間ではありますが、CEReS の共同利用・共同研究拠点の活動状況や研究紹介および施設見学等、現在の取り組みに触れて頂く貴重な機会となりました。

